

コスモス 5月号

第73巻 第5号

◆宮柽二カレンダー（74）五月の歌

群れるむらが
蝌蚪の卵くわとに春日さす生れたければ生れ

てみよ

『日本挽歌』

昭和26年8月号「多磨」に初出。透明な寒天状の細い管から今、まさに生れようとしているおたまじやくし、黒い尾をしきりに振っている。戦後のまだ渾沌とした時代、うつうつとして心寒い日々であったろう。「生れたければ生れてみよ」に作者の静かな気魄と言うか、並々ならぬ闘志を感じる。小さなおたまじやくしの命を詠みながら、翻って自らの魂を披歴している。かつて若い私にとって印象深い一首であったが、老いてなお何か励まされる歌である。

（宮西 史子）